

事務事業評価シート

1 基本情報

1 基本情報		事業番号		040302030100		事業の種類		4	
年度	1	事務事業名	環境施策関連事業	予算事業名	環境施策関連事業		優先度	4	
まちづくり目標		未来を支える産業の活性化と環境にやさしいまち		担当部局名	市民生活部環境課				
施策名(中)		地球温暖化防止に向けた循環型社会を推進する		担当課長	宇久 勝志		担当者名	大角 潤矢	
取組み事項		地球環境問題に対する啓発と環境学習を推進する		実施計画への記載	無		主要事業の指定	有	
実施計画事業名									
根拠法規及び関連法規		環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(環境教育等促進法)							
事業の目的	誰のために(具体的に)		市民						
	誰(何)を対象として		特に小学生児童						
	意図(どのような状態にしたいのか)		相生湾の自然に触れ、自然の大切さ、ふるさとに愛着を感じる。						
	事業の全体年度		事業着手年度		(年度)	事業完了予定年度		(年度)	

2 事業の概要 Do

実施の概要		小学校高学年児童を対象に、相生湾や播磨灘の身近な海の自然環境を守り育てる活動として里海づくりを行い、故郷の海について体験型の学習を行う。				
活動実績	項目	単位	29年度実績	30年度実績	1年度実績	2年度計画
	里海体験学習参加人数	人(延べ)	1,086	860	501	1,000

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		29年度決算	30年度決算	前年比	1年度決算	前年比	2年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.028	0.028	100	0.029	104	0.027	93	
	参事以下職員	0.528	0.436	83	0.380	87	0.436	115	
	臨時職員	0.040	0.052	130	0.052	100	0.044	85	
支出内訳	人件費	4,551,576	3,754,952	82	3,315,509	88	3,682,481	111	
	事業費	1,050,620	1,079,804	103	969,453	90	977,000	101	
	合計	5,602,196	4,834,756	86	4,284,962	89	4,659,481	109	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	5,602,196	4,834,756	86	4,284,962	89	4,659,481	109	
	合計	5,602,196	4,834,756	86	4,284,962	89	4,659,481	109	

※ 事業の進捗状況

		事業費単位:円			
項目		29年度	30年度	1年度	2年度
全体進捗率	事業費累計				
	進捗率				

4 評価指標

【有効性】

指標名1		里海体験学習参加人数							
指標説明(式)		里海体験学習参加人数							
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
人	目標	600	800	133.3	1,000	125.0	1,000	100.0	
	実績	1,086	860	79.2	501	58.3			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

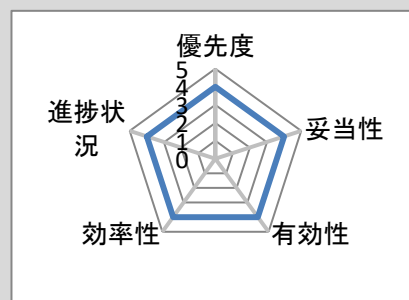
指標名1		参加者割合							
指標説明(式)		事業費(委託料) ÷ 参加者数 (参加者1人当たりのコスト)							
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
円	目標	1,300	1,000	76.9	900	90.0	900	100.0	
	実績	920	1,162	126.3	1,796	154.6			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(1年度実績) Check

評価視点	具体的な評価視点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	相生の財産である海に特化した事業展開をしており、ふるさとに愛着を感じる子ども達を増やし、将来に渡り相生に思いを持った子ども達が育っている。環境教育体験活動優良事例に選定された。	4
	市民ニーズ	学習を行うため、小学4年生以上の児童20名で「里海クラブ」を結成し、1年間固定メンバーで活動しているが、その募集についても募集開始から1時間程度で定員となる。そのことからニーズに合った活動だといえる。	
有効性	成果の向上	学習の講師、指導者として専門家、市民団体の協力を得て行っており、より質の高い活動となっている。	4
	市民サービス	普段相生の海に触れたことがない子供やその保護者も参加しており、相生の事を知るという意味においても有効である。	
効率性	手段の最適性	年間スケジュールを決め、参加者もクラブ員として固定することで効率よく展開出来ている。	4
	執行体制の効率性	学習会の実施については、参加している市民団体が、それぞれの得意分野でメインとなって行い、他の団体はサポートにまわり活動している。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	概ね計画通り進捗している	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	荒天が多く、実施出来なかった事業があるので、その代替え事業の確立が必要である。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた2年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	兵庫県の各機関との共同事業を確保し、荒天時においても別の事業展開が出来るようにした。

配点	32.5
総合評価	26

(2) 3年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	引き続き関係機関と良好な関係を保ちながら続けて行きたい。
見直事項	活動の幅を広げるためには参加者枠を広げる必要もあると思われるが、海での体験活動がメインのため、安全管理という観点から「里海クラブ」員を20名限定としている。安全に活動を行っていただける方策を研究する必要がある。
新規事項	
方向	継続 成果 維持 総コスト 維持